

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	りんどう 橙		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	平成30年9月4日	評価結果市町村受理日	平成30年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai.1.2018.022.kami-tru&sl_gvosyoCd=2192500029-00&PrEfCd=21&Ver:si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「夢 感動 笑空間 小さな夢の実現も大きな感動へ つなげよう笑顔で安心できる空間作りを目指します」を理念として利用者、家族、友人、地域、職員と交流を大切に、笑顔になって頂けるように日々の生活の中で、お互い出来る事を協力し合い持っている力を発揮して頂けるように支援に努めています。近くの小学生とのふれあいや近所のごみ拾いを兼ねたあいさつ活動を行い、寺カフェやローズカフェに参加し気分転換や地域の方とのコミュニケーションを目的に喫茶店へ行く事にも取り組み始め好評を頂いています。明るく優しい職員と共に笑顔で過ごして頂いています。地域貢献・地域交流の活動の一環として「つなぐ」も開催し、地域と繋がるきっかけを作っています。

利用者の意向やペースを尊重して、安心した生活で笑顔が増えるケアをしている。利用者のできる米とぎ、洗濯物干し・たたみ、ゴミ捨て等が役割から生きがいとなるように支援している。利用者の作品を展示する文化祭での出展も予定し、認知症サポーター養成講座の講師に職員を派遣している。小学校の校外活動を継続的に受け入れ、「りんどう祭」は地域住民やボランティアの協力が多く、職員の出し物も盛況であった。今年度から法人の地域貢献交流の活動として「つなぐ」でフットケア・アロマや美容筋トレ等の講座にも一緒に参加している。傾聴ボランティアが毎週来所し、聞いた意見も参考にしていく。法人内の勉強会や委員会活動に参加し、常に質の向上に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で、理念を掲げ、目標とすべき姿を共有している。さらに月に一度あるグループ会においても、利用者の声に耳を傾け、要望に添えるように職員間で共有している	日頃から理念を意識付けで実践できるように、理念と目標を掲示している。利用者が笑顔で、ゆったりと過ごせるように、その人の思いやペースを尊重し、理念に基づいているかを会議で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、地域で行われるラジオ体操・防災訓練への参加をしたり、地域の子供会から施設訪問がありました。地域貢献交流活動の一環として「つなぐ」を月一回開催している	近くの寺カフェ・認知症カフェや地域交流貢献活動に利用者と一緒に参加している。散歩・駅のゴミ拾い・喫茶店・祭や文化祭等に出掛け住民と交流している。「りんどう祭」は職員の出し物もして、大勢の住民が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催されている「寺カフェ」「ローズカフェ」に利用者様と一緒に参加し、りんどうの説明や認知症への理解啓発を行っている。地域の小学校の生徒さんの訪問が定期的にある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して、地域の方々からの意見、地域包括支援センターの方からは、困難事例への対応方法、町での取り組み課題の説明、利用者様の家族様より貴重な意見を聞き、サービスに繋げている	会議では事業所の状況や事故・ヒヤリハットも報告している。ヒヤリハットが書きやすい書式の提案をもらい、事故予防につなげている。地域代表者から地域の情報を得て、外出の機会にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	安八広域、地域包括、福祉課等と連携を密にして連携をとっている。町の多職種会議への参加も行い、困難事例検討会も行っている。	書類提出時に事業所の実情を伝え、必要時は電話やメールにて相談している。町主催の会議で情報交換し、協力関係を築いている。法人も交え町所有する隣地の雑草処理等について話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行わない。定期的な話し合いの時間を設けている。言葉かけや態度での拘束には特に十分注意し、業務を行っている	職員で話し合っ言葉の抑制をせず、見守りすることを大切にしている。定期的な内部研修にて、状況の発表・確認し合い共有して、拘束しないケアを心がけている。虐待のTV報道があった場合も即注意し合っている。利用者は、ユニット間を自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権について学んだり、入浴時にはボディチェックを行い、早期発見を行っている。高齢者施設における研修会には積極的に参加している		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があり、成年後見制度活用に繋げられる支援体制はできている。専門職の学びの場はあるが、介護職員の学びの場は、施設内だけとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用後においても不安や疑問に答えられる環境ができている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族様や利用者様の参加をしてもらい、意見等を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベータホールに設置し、閲覧して頂けるようにしている。	家族の面会時に声かけし、意見を聞いている。聞いた意見や要望は申し送りにて職員に伝えている。面会が少ない家族には、電話で聞いたり日用品の依頼をしたりして来所が増えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の場で意見や提案を汲み取っている。年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている	現場の意見や提案を毎月のグループ会議にて話し合い、申し送り時間や入浴体制を見直している。個人面談で研修希望や取得資格等もふまえて、上司の助言を得て研修の受講や勤務調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を行い、研修会への参加希望や勤務状況の把握に努め、職員同士がそれぞれ向上心を持って、業務に取り組んでいけるよう支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成には、研修委員を始め職員みんなで重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には、法人の貸付制度もあり、経済面での負担軽減にもなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる会議に参加し、各施設で抱えている困難事例の検討会を行っている。情報交換の良き場所となっている。地域のケアマネ会議にも参加している		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメント時には、聞く姿勢で本人と話をしながら不安や要望を理解し、安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、家族面談により情報を聞き、納得したサービスを利用して頂けるように支援している。家族の意見は、職員間で情報の共有している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用して頂けるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりに担当を決め心身の状態把握に努めている。担当者は本人主体でできることを出来るように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との良好な関係作りを積極的に行い、面会時には、最近の様子を知って頂けるようにしている。外出、外泊等を勧め、家族との関係性の継続を支援していく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの中で、馴染みの店や友人の関係性などの話をして要望に沿った支援している。併設事業所に出かけ、友人に会いに行っている。	年賀状や手紙を書く人には宛名の確認したり、声が聞きたいと言う人には電話を掛けたりしている。家族の協力を得て自宅・墓参や行きつけの美容院に行く人もある。職員が車イスを押し自宅に帰る時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話の中で、利用者様同士の関係性を職員が理解し、利用者様に職員が自然に寄り添い支えある関係性ができている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された時には、最後のお別れをさせて頂き、お礼と同時にこの先の関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の望む生活に家族の方からの情報の収集を行ったり、日常の生活から把握に努めている。必要な時には、家族様の支援もお願いしている	日常の会話から思いや意向を聞くなど、利用者様の言葉を大切にしている。夜間お茶を飲みながら、時間をかけて話を聞く人もある。利用者様の行動や仕草から把握する場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話の中で、生活歴を聞き取り、家族様から得た情報は記録に残し、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者だけでなく、家族様にも目を向け援助内容を決定、日々の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会等の会議で、意見交換し介護計画に繋げている。利用者様の気持ちを大切に、個別支援に努めている	本人や家族の意向を基に、医師の意見も参考にして、介護計画を作成している。介護記録や申し送りノートも参考にして、毎月の会議で話し合い気づきや意見を反映している。状態変化時は、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、他職種が連携して実践や計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には、地域包括支援センター、民生委員と連携してサービス提供している。併設している事業の多機能・特養に出向き、利用者様同士の交流もできている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校・子供会の訪問や地域主催の「ローズカフェ」「寺カフェ」に参加し、地域資源を有効に利用し、地域で支えている。地域情報紙にも目を向け、行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr回診が定期的であり、常にNsが健康管理を行っている。何かあれば家族への連絡等を行い適切な医療を受けて頂けるよう支援している。外部のかかりつけ医には、Nsより連絡票で情報提供している	かかりつけ医受診時は家族が同行し、連絡表に状態を記入し、受診後に家族から報告を受けている。歯科衛生士の口腔ケア指導や歯科医師の訪問診療を希望にて利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時やケガ等日常の状態変化の時には、早急にNsに報告している。かかりつけ医、家族に連絡し、適切な治療に繋げている。外部のかかりつけ医には、Nsより連絡票で情報提供している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や看取りの時期に近づいた時には、確認を行っている。終末期をどのように迎えたいか家族様と本人の意向を伺い、希望に沿った対応をしている	入居時に本人や家族の意向を確認している。状態に合わせて医師とも連携し話し合っている。看護師が職員に指導し、希望に合わせて家族と一緒に看取りも行っている。家族が一時帰宅を希望する場合は、医師の意見や職員とも話し合い自宅で過ごす人もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化時には、オンコール体制ができており、Nsに指示を仰ぐことができている。必要時にはNsが施設に来て対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が発足し、委員から職員に災害時の対応や訓練方法の説明等職員全員で取り組んでいる。地域の防災訓練にも参加し、地域との協働を行っている	毎回夜間体制の避難訓練を実施している。停電を想定し、発電機操作体験も行っている。水・オムツ・コンロや鍋等を備蓄している。消防団に声かけし回覧板で協力依頼しているが、住民の協力が得られていない。	様々な機会に住民の協力が必要であることを伝え、住民が訓練に協力できる働きかけを継続することが望まれる。

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては、グループ会等で再認識し、個々の尊厳等を大切に言葉かけや対応に気をつけている。個別になるお風呂タイムや部屋での傾聴も大切にしている	馴れ合いにならないよう、丁寧な言葉で接するようにしている。日常的に利用者の尊厳やプライバシーが守れるよう、管理者や主任が気づいた時に注意している。写真使用は家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を決めて頂けるような工夫を多く作っている。会話が難しい方には、しばらく様子見し、思いを伺う様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行える方には、好みの服をだし、着て頂いたり、理美容も定期的に行って頂き、身だしなみには心がけている。行きつけの美容室へ出かけられる方もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食を取り入れ、食べられないものは出来るだけ他のメニューで対応している。メニューから色々連想する会話が楽しみの一つになっている	車イスの人もイスに移乗し献立を説明しながら、好みや話題を引き出している。米とぎ・食卓拭き・食器洗いやおやつ作り等できる事を一緒にしている。天ぷらバイキング・寿司や駅弁等として楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、見た目も大切で、多い時には小分けにしての提供もしている。体重測定も定期的に行い、体調の変化にも注意を払っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯を自分で洗える方は自分で行っていただいている。定期的に歯科衛生士が入り、口腔ケアを専門的に行って頂いてる。必要時には、歯科往診に繋げている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている	排泄パターンを把握し、その人に合わせてトイレ誘導している。夜間のみポータブルトイレ使用やパッド交換する人もいる。日中はトイレ誘導することで、安易にオムツにしないケアに心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をすすめ一日の平均水分量を算出している。なるべく普通食を食べてもらえるようにしたり、散歩や体操に取り組んで頂けるように声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や温度など希望に添えるようにしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を味わっていただいたり、音楽を聴きながらの入浴を楽しんでもらっている	希望に合わせて時間・順番や湯温等調整している。好みの入浴剤やシャンプー等も対応している。嫌がる人には職員が交代したり、時間をおき声かけしたりしている。職員と会話や歌を歌って楽しみな時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や体調に合わせて、希望に沿った休息の時間をとって頂いている。定期的なシーツ交換や年2回布団の入れ替えも行っている。使い慣れた枕や毛布の持参もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、状態変化は、ケース記入し情報を共有し合っている。薬に関しては、説明書がいつでも確認できる。看護師が管理、指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の洗濯物をたたんでもらい、生活の張り合いにして頂いている。おやつや買い物と一緒に出かけ、好きなお菓子を買って頂いたり、近隣の喫茶店に行き、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にゴミ捨てにも出かけ、役割を持っていただいている。四季に合わせた「ドライブ」を取り入れ外出の機会を増やしている	利用者の希望で近隣の喫茶店や買い物等に出掛けている。桜・バラ・菖蒲見物や紅葉狩りやバス旅行もしている。敷地内で散歩や洗濯物のハンガー掛けをしてもらったり、ベランダで外の景色を眺めてもらったりして外気に触れる機会を作っている。	

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売での買い物時には、好きな服や食べ物等をお小遣いとして事務所でお預かりしているお金から購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族に出したり、家族に連絡を取りたい時には、施設の電話でかけて頂いたり、相談員が家族にかけたりしている。自分で手紙を書かれ、家族様とのやり取りもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を購入し、温度設定や、不快の匂いにも対応し、居心地の良い空間作りをしている。壁には手作りの作品を飾っている	居間に利用者で作成した季節の飾りや生け花を飾っている。扇風機やファンヒーターを使用し室温を調整している。好みの雑誌や新聞を置いて、自由に読めるようにしている。ペランダで季節の野菜を栽培し、洗濯物を干して家庭的になるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、好きな場所で気の合う人とおしゃべりが出来るように、気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を自宅から継続して使用している方もみえる。配置等にも考慮している。家族の写真を飾って心地よく過ごして見える方もいます	使い慣れた寝具類、ラジオや時計を持ち込み、タンスの上に人形や写真を飾り、作品や色紙を壁面に貼り、それぞれの居室にしている。オムツや物入れの箱を貼り紙や折り紙で飾り、その人好みに仕上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだりして頂くのに、動線に障害物が無いように注意している。環境整備に気をつけている。トイレまでに椅子を置き休憩できるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	りんどう 葵		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	平成30年9月4日	評価結果市町村受理日	平成30年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&gvyosyoCd=2192500029-00&PrEfCd=21&Ver:si onOd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年10月26日		

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で、理念を掲げ、目標とすべき姿を共有している。さらに月に一度あるグループ会においても、利用者の声に耳を傾け、要望に添えるように職員間で共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、地域で行われるラジオ体操・防災訓練への参加をしたり、地域の子供会から施設訪問がありました。地域貢献交流活動の一環として「つなぐ」を月一回開催している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催されている「寺カフェ」「ローズカフェ」に利用者様と一緒に参加し、りんどうの説明や認知症への理解啓発を行っている。地域の小学校の生徒さんの訪問が定期的にあります。つなぐを開催し、地位貢献活動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して、地域の方々からの意見、地域包括支援センターの方からは、困難事例への対応方法、町での取り組み課題の説明、利用者様の家族様より貴重な意見を聞き、サービスに繋げている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	安八広域、地域包括、福祉課等と連携を密にして連携をとっている。町の多職種会議への参加も行き、困難事例検討会も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行わない。定期的な話し合いの時間を設けている。言葉かけや態度での拘束には特に十分注意し、業務を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権について学んだり、入浴時にはボディチェックを行い、早期発見を行っている。高齢者施設における研修会には積極的に参加している		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があり、成年後見制度活用に繋げられる支援体制はできている。専門職の学びの場はあるが、介護職員の学びの場は、施設内だけとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用後においても不安や疑問に答えられる環境ができている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族様や利用者様の参加をもらい、意見等を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベータホールに設置し、回覧して頂けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の場で意見や提案を汲み取っている。年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を行い、研修会への参加希望や勤務状況の把握に努め、職員同士がそれぞれ向上心を持って、業務に取り組んで行けるよう支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成には、研修委員を始め職員みんなで重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には、法人の貸付制度もあり、経済面での負担軽減にもなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「ローズカフェ」では、近隣のグループホームと良好な関係性ができている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメント時には、聞く姿勢で本人と話をしながら不安や要望を理解し、安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、家族面談により情報を聞き、納得したサービスを利用して頂けるように支援している。家族の意見は、職員間で情報の共有している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用して頂けるよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりに担当を決め心身の状態把握に努めている。担当者は本人主体でできることを出来るように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との良好な関係作りを積極的に行い、面会時には、最近の様子を知って頂けるようにしている。外出、外泊等を勧め、家族との関係性の継続を支援していく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの中で、馴染みの店や友人の関係性などはなしをして要望に沿った支援している。併設事業所に出かけ、友人に会いに行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話の中で、利用者様同士の関係性を職員が理解し、利用者様に職員が自然に寄り添い支えある関係性ができている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された時には、最後のお別れをさせて頂き、お礼と同時にこの先の関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の望む生活に家族の方からの情報の収集を行ったり、日常の生活から把握に努めている。必要な時には、家族様の支援もお願いしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話の中で、生活歴を聞き取り、家族様から得た情報は記録に残し、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者だけでなく、家族様にも目を向け援助内容を決定、日々の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会等の会議で、意見交換し介護計画に繋げている。利用者様の気持ちを大切に、個別支援に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、他職種が連携して実践や計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には、地域包括支援センター、民生委員と連携してサービス提供している。併設している事業の多機能・特養に出向き、利用者様同士の交流もできている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校・子供会の訪問や地域主催の「ローズカフェ」「寺カフェ」に参加し、地域資源を有効に利用し、地域で支えている。地域情報紙にも目を向け、行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr回診が定期的であり、常にNsが健康管理を行っている。何かあれば家族への連絡等を行い適切な医療を受けて頂けるよう支援している。外部のかかりつけ医には、Nsより連絡票で情報提供している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時やケガ等日常の状態変化の時には、早急にNsに報告している。かかりつけ医、家族に連絡し、適切な治療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や看取りの時期に近づいた時には、確認を行っている。終末期をどのように迎えたいか家族様と本人の意向を伺い、希望に沿った対応をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化時には、オンコール体制ができており、Nsに指示を仰ぐことができている。必要時にはNsが施設に来て対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が発足し、委員から職員に災害時の対応や訓練方法の説明等職員全員で取り組んでいる。地域の防災訓練にも参加し、地域との協働を行っている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては、グループ会等で再認識し、個々の尊厳等を大切にされた言葉かけや対応に気をつけている。個別になるお風呂タイムや部屋での傾聴も大切にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を決めて頂けるような工夫を多く作っている。会話が難しい方には、しばらく様子見し、思いを伺う様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行える方には、好みの服をだし、着て頂いたり、理美容も定期的に行って頂き、身だしなみには心がけている。行きつけの美容院へ出かけられる方もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食を取り入れ、食べられないものは出来るだけ他のメニューで対応している。メニューから色々連想する会話が楽しみの一つになっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、見た目も大切に、多い時には小分けにしての提供もしている。体重測定も定期的に行い、体調の変化にも注意を払っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯を自分で洗える方は自分で行っていただいている。定期的に歯科衛生士が入り、口腔ケアを専門的に行って頂いてる。必要時には、歯科往診に繋げている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をすすめ一日の平均水分量を算出している。なるべく普通食を食べてもらえるようにしたり、散歩や体操に取り組んで頂けるように声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や温度など希望に添えるようにしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を味わっていただいたり、音楽を聴きながらの入浴を楽しんでもらっており、入浴剤の希望にも対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や体調に合わせて、希望に沿った休息の時間をとって頂いている。定期的なシーツ交換や年2回布団の入れ替えも行っている。使い慣れた枕や毛布の持参もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、状態変化は、ケース記入し情報を共有し合っている。薬に関しては、説明書がいつでも確認できる。看護師が管理、指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の洗濯物をたたんでもらい、生活の張り合いにして頂いている。おやつや買い物と一緒に出かけ、好きなお菓子を買って頂いたり、近隣の喫茶店に行き、気分転換を図っている。お米を研いだり、洗濯たたみを積極的に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にゴミ捨てにも出かけ、役割を持っていただいている。四季に合わせたドライブを取り入れ外出の機会を増やしている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売での買い物時には、好きな服や食べ物等をお小遣いとして事務所で預かりしているお金から購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族に出したり、家族に連絡を取りたい時には、施設の電話でかけて頂いたり、相談員が家族にかけたりしている。自分で手紙を書かれ、家族様とのやり取りもあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を購入し、温度設定や、不快の匂いにも対応し、居心地の良い空間作りをしている。壁には手作りの作品を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、好きな場所で気の合う人とおしゃべりが出来るように、気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を自宅から継続して使用している方も見える。配置等にも考慮している。家族の写真を飾って心地よく過ごして見える方もいます		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	せんとくものを干したり、たたんだりして頂くのに、動線に障害物が無いように注意している。環境整備に気をつけている		